

竹田市企業誘致の推進状況

竹田市の現状

竹田市は、少子高齢化の影響により年間約500人の人口減少が続き、高齢化率も48%に達している。各産業における人材不足は深刻で歯止めがかからない状況である。高速道路網の整備の遅れから大規模な製造業の進出もなく、雇用の場の確保が課題である。

デジタル田園都市国家構想推進交付金の活用

竹田市は若者の都市部への流出、特に10代～30代の転出が目立ち、この層に着目し特化した取り組みが必要である。多様な就労ニーズに対応できる雇用の場を確保し、若者の地元定住を促進するため、令和3年度、城下町交流館「集」の2階にサテライトオフィス（3社入居可能）を整備し、久住支所、直入支所にワーケーションなど柔軟な働き方ができるコワーキングスペースを整備した。環境を整えつつ、竹田市の地域資源を活かした地域の課題解決を図るためIT等関連企業の誘致を並行して行った。東京の企業2社の進出が決定し現在、定着に向け実証事業を展開中。



大分県知事立地表明

令和4年3月16日、大分県庁で進出2社が立地表明。
竹田市は進出協定を締結。



竹田市の地域課題

- ・農家の高齢化と後継者・担い手不足
- ・中山間地のため作業効率が悪い、耕作放棄地の増加
- ・人手不足により定植や収穫などの作業が適期にできない

持続可能なスマート農業への転換

- ・若者が就学・就業を理由に転出している
- ・仕事固定化され、選択肢が少ない
- ・子どもを育てながら働ける環境がない

人材育成と新しい仕事づくり

進出企業と事業概要



アグリ
株式会社Agriee（東京都）

会社概要：衛星画像を活用し、客観的に農作物の生育を評価するシステム『GrowthWatcher』を開発。

実証事業：「商品開発事業」
中山間地にある飛び地の管理コストの削減を図る。
普及員や実需者、関連企業でも利用可能なサービスを提供する。

- ◇生産者は、過去の栽培情報を登録。情報を平年値化し、現在の圃場情報と比較することで生育状況を評価。異常時にアラートが発出され、圃場の見回り回数を減らすことが可能。
- ◇農業普及員、指導員がシステムを活用し、指導的立場に必要な機能を追加、開発を行う。
- ◇異常値の検出原因、改善方法等の営農記録をデータベース化し、新規就農者の育成支援システムとして活用波及させる。

New Tech. for Street

Tech.st

テクスト
Tech.st株式会社（東京都）

会社概要：若者と商店街をつなぐきっかけづくり。
商店街に多世代コミュニティを創出し、地域の活性化を目指す。商店街のIT化、DX化支援。

実証事業：「ICTスキル講座の開催と
地元事業者とのマッチング」
子育て世代の女性や市内高校生を対象にNoCode講座を開催し、HPやアプリ作成のスキルを取得する。そのスキルを活用して、商店街のIT化・DX化を図る。

- ◇コードソースの要らないNoCode（STUDIOやAdalo）を使ってHPやアプリを作成する手法を学ぶ。
- ◇地元商店街でヒアリングを行いながら個店のHPを作成する。
- ◇高校生はNoCodeを通じて、まちづくりに関わる。地域に関わったことにより、将来の仕事の選択肢を広げる機会となる。
- ◇参加者が、地元事業者からHPやアプリ制作の発注を受けたり、地元企業にICT人材として雇用されることを目指す。